

リスク認識の困難さとリスクコミュニケーションの重要さ

1. リスクは危険／安全の「二分法」の論理の成り立つ事象ではない(＝確率的)
2. 関連科学の現状から必然的に不確定性を含む(＝専門家の間で意見に相違あり)
3. 一般市民の関心、懸念、選好、価値観に対する専門家の理解不足
4. 人々の理解がまちまち、極めて情動的、主観的である
 - ① ベネフィットが感知できるとリスクを受け入れやすい
 - ② リスクを自主的に受け入れられればより安心する
 - ③ 自らの自由にならないリスクを過大視する

➡ リスク、ベネフィットを正確に、情動的に伝達することが大切

図 3

がんの原因についての認識

